

おお大勝利

平成 25 年度山東サッカー部報第 18 号 (9 月 27 日)

サッカー部保護者の皆様、OBの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

Y2A 2連勝、3位で締めくくる

9 月 21 日 (土) 23 日 (月) Y2A リーグ (U18 山形県リーグ 2 部 A ブロック) の最終 2 連戦が行われました。21 日の相手は長井高校。23 日は鶴岡東。Y2A は山形中央 B の 1 位が確定しているものの、山東は 2 位に食い込むチャンスはある。暫定 2 位はモンテユース B で山東は暫定 3 位だが、勝ち点差は 1 であり、2 連戦 2 連勝すれば、充分可能性がある。もし 2 位になれば、1 位の山形中央 B が (山形中央 A の Y1 在籍により) 昇格できないため¹、昇格の可能性はある²。まず、21 日の長井だが、Y2A では今期なかなか勝ち点を上げられず苦しい戦いを強いられてきたが、置賜地区の地区新人にて米沢中央、米沢工業に続いて県新人の最後の切符をゲットし、波に乗っている模様³。23 日の鶴岡東は、今期まだ調子が上がっていないものの、昨年の県新人優勝チームであり (山東も県新人の初戦で痛恨の逆転負けを喫した)、その攻撃力は衆目の一致するところ。山東新人チームからすれば「胸を借りる」相手。だが、気持ちの面で後手を引いては実力の劣るチームの勝てる見込みはなくなる。**5分5分のボールをマイボールにするのは当然のこととして、4分6分で相手に渡るような場面でも厳しい球際でマイボールにする寄せが求められる。**

さて、長井から。山東の立ち上がりは決して良くなく、雑なプレーや甘いプレーの連発で、長井の攻撃力を引き出している。**今日の山東イレブン、出場できない選手の代表としてピッチに立っているという重みがわかっていない。**とまあ、イライラする立ち上がりを過ぎ、徐々に山東の流れができてきたあたりで、CMF クリロンが中央 (インサイド) のパスの連携から抜け出し、丁寧にフィニッシュし、先制。その後もアバウトな山東ペースは続き、立ち上がりのプレーが安定しなかったカットも徐々に力を発揮し出す。前半は確か (?), そのカットとその日 2 点目のクリロンが決め、3 対 0 で折り返す。右 MF チャラミと FW コウタの調子は前半一向に上がらず。故障明けの CMF ムンタリのプレーも雑さが目立ち、前方へのパスの成功率が極めて低い。左 SB シャモジは相変わらず相手にボールをプレゼントする天才ぶりを発揮しているし⁴、右 SB ヨーティはここしばらく「本当のヨーティ」からはかけ離れたプレーが多い。守備においては対人で縦に破られることが多く (中に切り返しさせないことに注意が行き過ぎている⁵)、攻撃面では右足

¹ A と B や、B と C は 3 部リーグを除き、同じリーグに在籍できない決まりになっております。

² Y2 からの昇格は、A ブロック・B ブロックの 1 位の合計 2 チームが自動昇格することになっています。

³ ちなみに、山東の県新人の一回戦の相手も、別紙の通り、長井となっております。

⁴ その日のシャモジは、山大サッカー部在籍の OB のオーツキさんに対して過去言ったように、「味方にパスしようとするストレートに (!) 相手に渡るから、それなら一層、相手に対してパスをください (そうすれば逆に味方にボールが渡るかも)」という指示を与えなければいけないほどでした。

⁵ これはこれで基本なのですが、かといって縦にぶち抜かれては意味がない。難しい塩梅^{あんばい}なのですが、(切り返しさせず縦にも突破させず) 両にらみでプレーできて初めて良い選手になれます。というか、サイドでの縦か中かの攻防では、中に切り返しされ重心をずらされても、もう一度体勢を立て直せるので、中を切りすぎて縦に行かれてしまう選手の場合は、より縦を警戒した方が良いに決まっている。さらに言うと、相手よりも低

の精度やトラップ or ワンタッチで捌くの判断ができていないことが多い。CDF アカガワさんは相変わらず、観ている人をハラハラさせる。GK ケツツンや CDF タツルは安定感あるプレーをしているが、期待されるレベルで丁寧なロングフィードができていない。トップ下リンは相変わらず「味方が出したがっている場所がわかる」読みのよいプレーでボールにかかわるものの、ゴールにボールを近づかせるプレーにはなっていない。ということで、**満足するレベルでプレーしている前半評価できるのはクリロンくらいか**⁶。

後半は、チャラミやムンタリなど 1 年生を中心に少しずつプレーの精度が上がり、前半より良い。ハーフタイムが、良い気持ちの切り替えにつながった模様。立ち上がり 10 分ほどで狙い通り 2 点追加し、**これまで出場機会のなかった 2 年ジュンヤやチョマヌキ、ドイを投入。また同時に、最近斎藤 GK コーチをして「頑張っているから出場させてほしい」と言わしめた 1 年 GK サブローを同時に投入**。ジュンヤやチョマヌキは得点チャンスあったのにね～、残念。ちょっと遅れて出場したエイジは、ここ最近得点できずにいましたが、何とかネットを揺らすことに成功。これを機に調子を上げてもらいたい。サブローはまだまだコーチングの声をより多くより大きくよりの確に出していく必要がありますが、夏以降の意識の高まりはその日のプレーにも現れていました⁷。**後半一番良い形での得点は、チャラミの得点だったか。右サイドをスピードで力強く突破しそのまま中へえぐりシュートを決めました**。まあ、ここにおける右サイドの突破も、実は相手がそれほど近くにせまってないのに後ろを向いたままドリブルで仕掛けましたが、欲を言うと、しっかり後ろを確認し（相手との距離を測り）素早く反転し、ゴールに体を向け（良いボディシェイプを作り）仕掛けることもできたので、そういうプレーの癖をつけてもらいたい⁸。最後に、セットプレーから余計な失点をしましたが、結局 7 対 1 で勝利。**大量得点で勝つには勝ちましたが、選手諸君、解散の反省では試合内容に相当反省しておりました**。

1 日はさんで鶴東戦。山東は前期期末テストが 9 月 26 日から始まるため、実は 17 日から練習をオフにしており、中日もオフ。疲れは癒えるでしょうが⁹、何の上積みもないまま鶴東戦へ。まあ、ちょっとやっただけで劇的に変わるわけでもなく、逆に何もしない方が無心でやれるかもしれない（と自分に言い聞かせ試合に臨みました）。その日はちょうど妻の用事の関係で私が 2 歳の息子の面倒を見なければならず、なついている斎藤 GK コーチにグラウンドで面倒見てもら

い位置に立っていることの多い SB は、完全に横や斜め後ろからボールホルダーに迫ることの多い MF や FW と比べ、切り返しを完全にケアすることはできないはずなのです。最近のヨーティは、横をケアしすぎて、相手よりも低い位置をキープし続けていないと思われま

⁶ クリロンは今期当初、山東における自分の活躍の仕方がわからず、必要以上に自分ですべてやろうとして自滅するプレーが多かったですが、ここ最近やっと、粘って数少ないチャンスをもものにするしかない山東において自分に求められることがわかってきて、本当の意味でチームの核になってきたように感じます。地区新人山形中央戦でも、クリーンなスライディングで相手の攻撃の芽を摘むなど、守備における貢献度も高いです。ただ、鶴東戦では、悪いボディシェイプのときでも自分で打開しようとして、2、3 人から挟まれボールロストするシーンが複数回ありました。相手の位置・人数、ボールの状態、自分の状況を瞬時に判断し、自分なら何ができるかを計算する必要がある。その点で、まだクリロンにも伸び代があります。

⁷ ちょうど一年前には、ケツツンには選手権のサブ GK も任せられないとの判断から、学校の宿題やサッカー部の提出物を当時もっともでたらめにやっていた「とある 2 年生（当時）」に臨時でサブ GK をやらせたこともありました。今年の選手権の出場の手続きをしていて「そんなこともあったな～」としみじみ思いました。だって、その後（昨年秋以降）、ケツツンは大きく伸び、冬には我らがヒデアキから正 GK の座を奪ったのでした。一年前から考えると、現在のケツツンの活躍はウソのようです。**2 年生の中で最も伸びたのは間違いなくケツツンでしょう**。サブローもまだまだ自分の体を自分でコントロールできていませんが、ケツツンのような例もあります。努力を続けましょう。斎藤 GK コーチは「今年のケツツンのレベルより、今のサブローの方が上」と仰っていますよ。

⁸ 反転した瞬間、相手が猛然とボールを奪いに来ても、それを交わす自信があれば、できます。良い選手はそういう間合いを心得ているものです。

⁹ 体を全く動かさないよりも、軽い負荷である程度の時間動いた方が疲れが取れやすいとは言えます。

おうと思いましたが、山形中央グラウンドに到着してほどなくして「帰っておうちで遊ぶ」と、ぐずる。キックオフまでドライブしたり、斎藤 GK コーチに抱っこで散歩に行ってもらったりと、さまざま試みるも、機嫌は治らず。「どうしてもぐずるようなら、斎藤 GK コーチに試合の指揮をしてもらい、家に帰るしかないか」などと腹を決めるも、**試合開始近くに現れた主将コウタの弟と妹と一緒に遊んでもらい（お母様には新幹線の駅を作っていたいただいたことで）、斎藤コーチとともに安心して試合を観ることができました。森谷さん、本当にお世話になりました（また、よろしくお願ひしま〜す）。**

さて、試合内容ですが、前半から予想通り後手を踏み、鶴東ペース。山東は押し込まれているだけに、後方に守備の人数はそろっているのだから、**少なくとも縦パスには厳しく行って簡単にボールを収めさせてはいけない**のだが、簡単に縦パスを通させてしまう。鶴東のパスワークが上というか、山東の守備が前から行くのか慎重に行くのかの方針がぶれているというか。**最終ラインのラインコントロールも、リードする選手に対して他の最終ラインの選手が首を振って確認しておらず（トレーニング不足！）、ラインがバラバラ。ラインコントロールは高校生のレベルに達していない（ということとは向上の余地ありということです）。**ただ、簡単に裏を取られてフリーでシュートという場面は作らせず。裏を取られない CDF コンビの調子も悪くない。押され気味なものの、**限定の方向を保ち続け切り返しをされない守備¹⁰**をする山東に対して、鶴東のテクニカルな選手がひっかける場面が多々あり、ボールを奪い際のカウンターのチャンスはまあまあある。ですが、やや強めの追い風を考慮した丁寧な縦パスを入れることができず、また、前線のエイジとリンもなかなか後方の選手が攻め上がる時間を作ることができず、非常に攻め口が薄い。そんな中、山東右からの CK を得る。後藤報道局長は、以前よりもセットプレーに可能性を感じていらっしやったようですが、ベンチからさほどの期待なく眺めると・・・**クリロンのライナー性のボールを、「感性の男シャモジ」が弓なりになる素晴らしい空中姿勢から頭で弾き飛ばすと、ボールはきれいにゴールマウスの中へ。**未完成の選手ではありますが、体を動かす感性には輝きがある（次は頭で考えてプレーする面でも褒められましょう）。さて、押され気味のチームが先制することもあるから勝負は面白い。その後、鶴東にきれいにパスを回されてフィニッシュされる危ないシーンもありましたが、何せ押される試合展開でゴール前に人数がいるものだから、ファインシュートもゴール前を固める選手に当たり、事なきを得る。前半 1 対 0。

後半立ち上がり、早々にきれいに崩され、同点にされる。**このチーム、守備のリスムが出るまでの、前後半の立ち上がりの内容が悪い。**それまで劣勢のチームのスコアが上だただけに、観ている人も面白い試合だったかと思いますが、同点にされ、「あ〜やっぱり、上手いチームが結局は勝つのか〜」という重い雰囲気が出た試合会場を覆う。ベンチでも、「こんな感じで攻められたら逆転は時間の問題だな」と悲観的な見方をしてしまう。しかし！ **選手はあきらめていなかったというか、選手の粘りはベンチの予想を上回るレベルに達しているというか、その後、それほど決定的なチャンスは作らせず。そして後半途中に「後半 30 分からの男レスラー」¹¹が投入**

¹⁰ ボールホルダーに対して右（左）から寄せていったら、相手の右（左）方向から守備をし続けること。私、山東で指導していて、ユース世代に来る選手に本当に身につけていない守備の基本がこれだと思っています。どんなに名だたるクラブチーム出身でも、まずこの基本が身につけている例はありません。どうしても、相手の進行方向に先回りしてしまい、簡単に切り返しさせてしまいます。ですが、（個人の守備技術ではなく）グループにおける守備の基本は、1st ディフェンダー（最初にボールを奪いに行った選手）がボールホルダーにどのような限定をしているかを基にして、その他の選手の理に敵った配置が決まっていくというものです。1st ディフェンダーが右（左）を切りながら寄せていったら、カバーリングの選手は右（左）にボールが運ばれることは基本的にないことを前提にポジションを決定します。ですので、1st ディフェンダーが限定を守らずでたらめなことをやると、グループにおける守備（守備の組織）が滅茶苦茶なことになるのです。

¹¹ ということは、選手権では出場時間 10 分（選手権は 40 分ハーフ）、県新人では 5 分（県新人は 35 分ハーフ）

されると、FW と指示したはずなのに右 MF コウタと勝手にポジションチェンジを行い、右にいる。「いっつもあいつは右に右に行っちゃうんだよな～（まあポジションチェンジはどんどんやれと言っているし、自分たちで工夫してるんだろうから、ベンチであれこれ言わずに見守ろうか）」とぐっとつばを飲み込んだ矢先、クリロンから矢のようなボールが右に張っていたレスラーに入ると、スピードに乗り、そのまま斜めにドリブルを続けゴールを目指し、「ニアサイド（右足で打つ場合右サイド）からシュートを打つ場合は、体をニアサイドに向けたままシュート」という練習通り（基本通り）の体勢からボールだけファーサイドへ打つ¹²。GK はニアに体を反応させているので、きれいに GK の脇を抜くシュートとなり、山東の勝ち越し！ 試合終盤で双方とも疲労がたまっている中、レスラーが躍動。**その後も、レスラーが右からドリブルで切り込み、転ばされ、PK 獲得。地区新人で唯一 PK を外した主将コウタが冷静に決め、3 対 1 へ。**レスラー、実質 2 得点！！ そのまま粘り、そのスコアでタイムアップ。試合前には予想しなかった複数得点差のつく勝利となりました。

いや～、**（悪い時間も粘る）選手の粘り強さは本物なのかもしれません。**顧問の予想を超える頑張りようです。ただ、攻撃はまだ未熟ですので、改善点だらけですね。ともかく、**2 連勝でリーグ戦を最高の形で締めくくる。**その後、モンテユース B が山形中央 B に勝利したため、モンテユース B に勝ち点 1 差を維持されたまま 3 位で終了。モンテ B は Y2A で 2 位になりましたが、Y2B で 2 位の羽黒 B との勝ち点差で上回れなかったため、Y1 優勝の羽黒 A がプリンスに昇格すれば（昇格決定戦で福島 1 位に勝てば）羽黒 B の昇格となり、昇格を逃せば羽黒 A と同じリーグに羽黒 B が所属できないので、モンテ B が Y1 に昇格となります。どちらにせよ、山東の昇格の可能性はなし。残念ではありますが、**新人チームで 2 連敗の後 5 連勝は予想を上回る好成績でした。**皆様、今期のリーグ戦の応援、本当にありがとうございました。

さて、10 月からはいよいよ選手権です（11 月は県新人）。応援よろしくお願ひします。

10 月 5 日（土）選手権 1 回戦 対 寒河江高校 @寒河江高校サッカー場 11:00～
勝ったら

10 月 6 日（日）選手権 2 回戦 対 鶴岡南と長井の勝者 @日大山形 G 13:00～

力をもらいました！ 秋の保護者激励会

9 月 21 日（土）Y2A 長井戦のあと、選手権・県新人に向けた保護者会主催の激励会がメトロポリタン山形にて開かれました。とにかくご夫婦での参加の本当に多い、保護者の方々の熱心さを表している盛況ぶりでした。OB 会から清野会長・後藤報道局長・斎藤 GK コーチの 3 名が出席して下さり、草壁保護者会長から「最近の山東には勝つオーラがある（だから選手権・県新人でも自信を持って頑張れ）」という激励のスピーチ、清野 OB 会長から「試合での気合いが足りん！」と叱咤のスピーチを頂いた後、阿部さんの「三つの意味合い¹³」のお話で乾杯。

選手・マネー一人一人の意気ごみのスピーチでは、このたびアメリカへの転勤が決まった名司会大野さんから「（スピーチまでの 20 分）しっかり芸を考えておくように」という指示を頂いて

フ) ということになりますね。

¹² なぜニアサイドの場合ニアサイドに体を向けるのが基本かと言うと、そうすると**同じ体勢でニアにもファーにも打てる**からです。逆に、ファーサイドの場合（左サイドから侵入して右足で打つ、または右サイドから侵入して左足で打つ場合）、ファーサイドに体を向けるのが基本だと教えています。理由は同じく、**その体勢だとファーにも、ファーと見せかけてニアにも打てる**からです。私自身、そのように習ったことはありませんが、ヨーロッパのゴールゲッターを見ているとそのような体勢を作る選手がとても多いです。

¹³ 勉強についての件が一番生徒に堪えたと思います。

いたにもかかわらず、芸を披露したのはタイチ一人だけという寂しさ。選手権・県新人へ向けた意気軒昂なスピーチと裏腹に、**一発芸に対する意識の低さ**が目立ちました。選手は猛省し、来春までの宿題としてほしい。

2次会も盛況でした。4、5年前と比べ、2次会に参加する人数が増えたように感じました。保護者の皆様、大会へ向け力を頂戴しました。ありがとうございました。

今年逝去された武田前OB会長の経営されていた武田酒店さんよりお酒、佐竹校長先生よりお志を頂戴しました。この場を借りて、御礼申し上げます。ありがとうございました。